

## 発言事項

1. 川西市の給食と学校における食育の推進状況について
  - (1) 学校給食における内容の充実と食育の推進状況について
  - (2) 学校給食における旬産旬消や地産地消の現状について
2. 中学校給食センターの運用開始を機とした食育の更なる推進について
  - (1) 中学生に求められる食育について
  - (2) 中学校給食を活用した食育の推進について
  - (3) 給食を活用した防災教育について
3. 中学校での食育を推進するための環境整備について
  - (1) 中学校給食運用開始に向けてのスケジュールと準備状況について
  - (2) 中学生にふさわしい食育を推進する上での教職員に対する支援について

## 発言要旨（壇上での原稿）

皆さん、おはようございます。川西まほろば会の磯部裕子です。

只今、議長に発言のお許しをいただきましたので、壇上から質問をいたします。  
どうぞよろしくお願いいたします。

「食は命の源であり、私たち人間が生きるために食は欠かせない。また、国民が健康で心豊かな生活を送るためには、健全な食生活を日々実践し、おいしく楽しく食べることや、それを支える社会や環境を、持続可能なものにしていくことが重要である。」  
これは、この3月に発表された国の第4次食育推進基本計画の冒頭で述べられている言葉です。

コロナ禍においても、先を見据え今なすべきことを考えた上で、市政に携わる皆さんと共に目標に向かいより良い事業を進めることで、子どもたちや先生方をはじめ、学校給食に携わる皆さん、さらには、学校給食を支えてくださる皆さんの笑顔につながる提案をしたいと思っております。

テーマは「中学校給食と食育 ～生きた学びを通じ、たくましく生き抜く力を育む教育～」です。6月は国が示す食育月間でもあります。川西市の子どもたちが義務教育を終えるまでに、学校給食という生きた教育と、多角的な角度からの食育を体験し、その後の長い人生をたくましく、生き抜くための健康という礎を、自らの知識と知恵、そして、経験で培えるよう、中学校給食と食育の在り方について考えたいと思います。

令和4年9月には川西市中学校給食センターが開設されます。設計から建設、さらには15年の運用、総額64億4千万円の大きな事業です。

学校給食法においては、学校の設置者である地方公共団体は、給食の実施に努めるよう定められており、平成17年の食育基本法の制定を受け、学校給食の主たる目的が「栄養改善」から「食育」へと改訂、食育を推進する上で、給食が重要な役割を期待されてきました。

その期待に応えるべく、川西市で新たに開設される給食センターは、事業実施の方針として「川西市の食と健幸をつくる食育ステーション（ここでいう健幸は、健やかに幸せにという文字を使います）」を目標に掲げ、食育にも意識を向けた施設となっています。

そこで、川西市における給食と食育の現状や、学校給食における食育を支える地産地消の状況を確認、さらには中学校給食を活用した中学生にふさわしい食育や、給食を活用した川西らしい食育を推進するための環境整備についてお尋ねします。

大項目は3つ。

## 1. 川西市の給食と学校における食育の推進状況について

### (1) 学校給食における内容の充実と食育の推進状況について

平成22年9月、阪神間都市部で初めて小学校における完全米飯給食を達成した川西市。その頃より、川西市では和食の良さを見直すなど「食育」を意識して取り組んでこられました。そして、現在、川西市では、平成30年4月からスタートしている第2次川西市食育推進計画（川西市健幸まちづくり計画 第6章）の中でも、学校給食や学校での食育に関する施策に取り組んでいます。そこで第2次川西市食育推進計画の施策に掲げている「給食内容の充実」と「学校における食育の推進」の現状や成果についてお聞かせください。

## (2) 学校給食における旬産旬消や地産地消の現状について

ここでは、川西市の学校給食において、旬のものを旬のうちに食することや「地産地消」の具体的な事例や現状をお聞かせください。また、学校給食の地産地消を支える上で、生産者の方々と、どのようにつながっているかお聞かせください。

## 2. 中学校給食センターの運用開始を機とした食育の更なる推進について

### (1) 中学生に求められる食育について

ここでは、中学校給食の運用開始に際して、改めて、中学生に求められる食育とは何か、川西らしい食育とは何か、お考えをお聞かせください。

### (2) 中学校給食を活用した食育の推進について

ここでは、中学校給食という新しい事業を活用して、どのような食育が推進できるのか、お考えをお聞かせください。

### (3) 給食を活用した防災教育について

小学校給食においては、阪神・淡路大震災の日である1月17日を「おむすびの日」として、災害時の食を考える防災教育が行われています。中学校給食開始に際して、小学校での学びの継続として、中学校給食を活用し、災害時や避難所での食を考えるような防災教育が予定されていればお聞かせください。また、災害時の防災備蓄食として準備されている食料品などを学校給食（防災教育）に活用するお考えがあればお聞かせください。

## 3. 中学校での食育を推進するための環境整備について

### (1) 中学校給食運用開始に向けてのスケジュールと準備状況について

中学校給食センターは令和4年9月の開設に向けて、順調に準備が進められていることと思いますが、開設までのスケジュールや、いつどのタイミングで誰をターゲットにした運用準備や、シミュレーションを進めていくのか、お聞かせください。

## (2) 中学生にふさわしい食育を推進する上での教職員に対する支援について

中学校給食を運用するにあたっては、第一に決められた時間内に全員が安全・安心して喫食できるよう準備を進めていることと思いますが、給食や家庭科をはじめ、その他の教科を活用した食育を展開していくためには、教職員の皆さんへの支援は、必要不可欠なことと思います。そこで、教職員の皆さんが、給食を機に中学生にふさわしい食育を推進する上で、必要な知識を身につけ、経験を積める研修や、支援策などの計画がありましたらお知らせください。

以上、壇上での質問を終わります。中学校給食の事業については、来年度の事業であり、今から検討していくことも多いかと思いますが、これからのことを理事者の皆さんと建設的に考えたいと思います。ご答弁、よろしく願いいたします。